

T07b 近赤外線カメラ SIRIUS を用いた PKS1343-601 周りのサーベイ

永山貴宏、中島康、加藤大輔、栗田光樹夫、長田哲也、佐藤修二（名大理）、長嶋千恵、中屋秀彦、田村元秀（国立天文台）、杉谷光司（名古屋市立大）、Patrick Woudt（ケープタウン大）

グレートアトラクター（GA）は近傍宇宙で最大の重力源（ $M \sim 5 \times 10^{16} \odot$ ）である。この重力により多くの銀河の固有運動が影響を受けている。GA は銀河の分布、後退速度からおおよそ銀河面の背後（ $l \sim 320^\circ$, $b \sim 0^\circ$, $v \sim 4500 \text{ km/s}$ ）（Kolatt, Dekel and Lahav, 1995）に存在していることは分かっている。この位置近くには大銀河団 A3627（ $l=325.3^\circ$, $b=-7.3^\circ$, $v=4707 \text{ km/s}$, $M \sim 5 \times 10^{15} \odot$ ）が見つかっている（Kraan-Korteweg et al., 1996）。しかし、 $|b| \leq 5^\circ$ は銀河面による Zone of Avoidance であるため、観測が進んでおらず、依然、GA がどのように構成されているかは良く分かっていない。そこで我々はダストによる吸収・散乱の影響を受けにくい近赤外線観測を行い、GA 予測位置付近の銀河の分布の研究を行っている。

本講演では 2001 年 5 月に行った巨大楕円銀河 PKS1343-601 (Cen B) 周囲 $35' \times 35'$ の観測の結果を報告する。PKS1343 - 601 は GA の予測位置近く（ $l=309.7^\circ$, $b=1.7^\circ$, $v=3872 \text{ km/s}$ ）に位置し、強力な電波源でもあることから、GA の質量の一部を担う大銀河団が周囲に存在しているのではないかと示唆されている（Kraan-Korteweg and Woudt, 1999）。観測は名古屋大学の南アフリカ 1.4m 望遠鏡に近赤外線カメラ SIRIUS を取り付けて行った。

結果、K バンドの直径（20 等/arcsec²）が 30" を越える銀河を 4 個検出した（含 PKS1343 - 601）。このうちの 1 つは未同定の X 線源 2E1344 - 6022 と位置が一致した。また、これら以外に、銀河である可能性の高い、広がった天体を少なくとも 13 個、銀河であるかどうか分からないが、わずかに広がっている天体を数十個検出した。